

1

区分式の損益計算書の構造について説明し、その意味を解説しなさい。

2

つぎの取引について、仕訳をしなさい。

- (1) 宮崎商店は事務用コピー機を¥ 500,000 で、長崎事務機器店から購入し、代金のうち¥ 400,000 は小切手を振り出して支払い、残額は月末払いとした。
- (2) 山口商店は、所持している岡山商店振り出しの約束手形¥ 150,000 について、同店から支払期日の延期の申し入れを受け、これを了承した。よって、岡山商店は、旧手形を破棄し、新手形を振り出した。なお、期日延期に伴う利息¥ 4,500 は新手形の金額に加えた。
- (3) 事業用固定資産につき、納税通知書が送達された。税額は¥ 750,000 である。
- (4) 従業員に対する給料を、支給総額¥ 3,500,000 から源泉徴収所得税¥ 300,000 および社会保険料従業員負担分¥ 320,000 を控除して、現金で支払った。

3 次の残高試算表、未達事項、および決算整理事項によって、解答用紙にある本支店合併の損益計算書および貸借対照表のカッコ内に正しい金額を記入し、それらを完成させなさい。

ただし、

- ① 本支店間の内部取引は相殺消去する。
- ② 支店はすべての商品を本店から仕入れている(前期も同様)。
- ③ 本店から支店へ商品を発送する際、原価に10%の利益が加算(前期も同様)されており、未実現の内部利益は商品棚卸高等から直接控除する。
- ④ 未達現金は現金預金に、未達商品は商品(棚卸高)に含める。

残 高 試 算 表

平成〇年12月31日

借 方	本 店	支 店	貸 方	本 店	支 店
現金預金	?	200,000	買掛金	300,000	0
受取手形	950,000	100,000	割引手形	250,000	0
売掛金	910,000	150,000	貸倒引当金	16,000	1,000
繰越商品	1,000,000	?	減価償却累計額	2,880,000	324,000
支店	?		本店		1,430,000
備品	9,000,000	900,000	資本金	10,000,000	
仕入	11,200,000	0	利益準備金	800,000	
本店より仕入		1,155,000	未処分利益	200,000	
営業費	6,100,000	1,050,000	売上	17,800,000	1,910,000
割引料	31,000	0	支店へ売上	?	
	?	3,665,000		?	3,665,000

(注) ?の箇所は各自で推定すること。

## 未達事項

1. 本店から支店へ商品¥ 44,000 を発送したが、支店に未達である。
2. 支店から本店へ現金¥ 50,000 を送金したが、本店に未達である。
3. 支店が本店の売掛金¥ 60,000 を回収したが、本店に未達である。

## 決算整理事項

### a. 商品棚卸高

	期首商品棚卸高	期末商品帳簿棚卸高	期末商品実地棚卸高
本店	¥ 1,000,000	¥ 1,200,000	¥ 1,180,000
支店	¥ 110,000	¥ 143,000	¥ 140,800

(注) 支店の期末商品に未達分は含まれていない。

- b. 受取手形および売掛金の期末実際有高に対して、差額補充法により2%の貸倒引当金を設定する。
- c. 備品について、本支店とも定率法により減価償却を行う。償却率は20%である。
- d. 営業費について、本店には¥ 80,000 の前払分が、支店には¥ 30,000 の未払分がある。

4 平成 13 年 3 月 1 日における次の取引について、(1)入金伝票・出金伝票・仕入伝票・売上伝票・振替伝票に記入し、(2)これらの伝票をもとに、仕訳集計表を作成し、(3)総勘定元帳に転記しなさい。さらに、(4)伝票から得意先元帳にも転記しなさい。

ただし、

- (ア) 商品売買取引については、いったん全額掛け取引として処理する。
- (イ) 伝票は略式とした。各伝票には、伝票番号、勘定科目および金額、必要ならば、取引先を記入しなさい。伝票番号は、〔 〕に各取引の番号((1)~(7))を記入して完成させる。(たとえば、(3)の取引を入金伝票に記入した場合、伝票番号は、No. 1〔3〕、つまり、13 番になる。)
- (ウ) 伝票のうち、不要なものは空白のままにしておくこと。また、赤記する必要がある箇所については 2 重下線を引くこと。
- (エ) 仕訳集計表の勘定科目の( )に、適切な勘定科目を記入すること。

## 取 引

- (1) 札幌商店に、商品 ¥ 152,000 を売り渡し、代金は現金で受け取った。なお、発送運賃(当店負担) ¥ 4,000 は現金で支払った。
- (2) 青森商店から商品 ¥ 148,000 を仕入れ、¥ 70,000 は小切手を振り出して支払い、残額は掛けとした。
- (3) 盛岡商店に、商品 ¥ 90,000 を売り渡し、代金のうち ¥ 40,000 は同店振り出しの約束手形を受け取り、残額は掛けとした。
- (4) 山形商店から、商品 ¥ 100,000 を仕入れ、代金は掛けとした。なお、引取運賃 ¥ 5,000 は現金で支払った。
- (5) 盛岡商店へ売り渡した商品について、¥ 10,000 値引きをした。なお、値引高は売掛金から差し引くことにした。
- (6) 山形商店より、同店振り出し、当店あて、秋田商店受け取りの為替手形 ¥ 70,000 の呈示を受け、これを引き受けた。
- (7) 取得原価 ¥ 400,000、減価償却累計額 ¥ 240,000 の備品を売却し、手取金 ¥ 120,000 は月末に受け取ることとした。なお、この備品の減価償却については、間接法で記帳している。